

令和7年度第2回精華町社会教育委員会議 会議録

開催日時:令和7年10月28日(火)午後2時～3時

場所:精華町立図書館1階集会室

出席委員:

高鍋房美委員長、村上栄副委員長、尾崎麻由美委員、堀口紀代美委員、播磨富士子委員、
尾崎万佐子委員、丸山琴羽委員、向井麻美委員、友久庄一委員、木崎政行委員

欠席委員:

北尾直美委員、吉田一雄委員

出席事務局職員:

川村教育長、松井教育部長、小笠原生涯学習課長、上野生涯学習課担当課長、
生涯学習課社会教育係 北川係長、金澤主事

傍聴者:無し

内容

1 議事

- (1) 精華町文化財保存活用地域計画について
- (2) 部活動の地域展開
- (3) 来年度の生涯学習講座について
- (4) 今後の社会教育委員関係の行事予定・来年度の更新について

2 報告

3 その他

《会議内容》

開会

小笠原生涯学習課長より第2回社会教育委員会議を開催するにあたり、委員定数のうち過半数(10名)が出席のため、精華町社会教育委員会議運営規則第7条第1項の規定に基づき会議が成立していることを報告され、会議を開始。

また、審議会等の会議の公開に関する指針に基づき公開とし、傍聴を許可、後日議事録を公開する旨を説明。

開会挨拶 高鍋委員長

- ・季節の変化（夏の暑さから急な寒さ）に触れ、自身の夏の思い出として、自治会役員として集会所を5日間開放した取り組みを紹介。子どもと大人が交流する「小さな公園」のような空間ができ、顔見知りが増え、情報交換や子どもの安心感が生まれた点を強調。
- ・公共施設の老朽化と予算不足による閉鎖問題に言及。集会所を小さな公園として活用すれば、保育所の延長や学童のような役割を果たせ、地域の子どもたちが近所の大人のもとに集まる昔のような形が実現可能と提案。
- ・現代の子どもたちが学校の先生と家族以外の大人と会話しにくい状況を指摘。自身の幼少期の経験（下町で大人に声かけられる）と孫の通学路（大人との接触が少ない）を比較し、大人が不審者扱いされる風潮を懸念。子どもと大人が交わる機会や場所の必要性を強調し、男性より女性のハードルが低い点を挙げた。

川村教育長 挨拶

- ・急な季節の変化と子どもの居場所の問題に触れ、議会でも話題となっており、町の課題として認識。夏の暑さ対策としての居場所確保の重要性を強調。
- ・本年度の主な取り組みとして、6月の京都府社会教育連絡協議会総会への出席や各種事業への参加を感謝。特に村上副委員長の京都府社会教育連絡協議会表彰（社会教育分野の顕著な功績）を祝賀（拍手）。
- ・生涯学習課の主な実施事業として、9月26日の精華町文化フェスティバル（展示・ステージ部門、尾崎委員の合唱参加）、10月12日のせいか祭り（2万7千人参加）と精華こども祭り（6300人参加）を報告。雨の影響でせいか祭りは参加者減少も、こども祭りは屋内開催で盛況。
- ・今後の事業として、11月9日の精華健康スポーツ交流フェスティバル（おくのきセンター、天井耐震改修のため東側広場中心、ニュースポーツ含む）を紹介。
- ・中学校部活動の地域連携・展開実証事業：種目を拡大し継続中（後ほど報告）。
- ・文化財保存活用地域計画：委員の意見を反映し、先月文化庁に最終案提出。関係省庁・文化審議会審査を経て12月頃認定予定。認定後、3月頃に記念シンポジウム開催予定。
- ・委員の皆様には本町社会教育推進への協力をお願いし、短い時間で活発な意見を期待。

議事進行：高鍋委員長が運営規則第4条に基づき議長となり、議事を運営。

議事（1）精華町文化財保存活用地域計画について

事務局（金澤）より、A4冊子資料に基づき説明。

- ・計画の概要：過去から受け継がれた文化財（精華町の宝もの）をまちづくりに活かし、地域総がかりで将来へ継承する計画。精華町らしさを象徴する精華町の宝もの（民具、神事、国立国会図書館関西館、遺跡出土物など）を紹介。
- ・精華町の歴史文化：交流・自然・信仰・人・景観の5テーマ（例：木津川の自然、里山、町名の

由来)。

- ・課題: 社会構造・価値観の変化による文化財消滅の危機(高齢化、無住寺院の保存、防犯・防災)。新住民の文化財へのなじみの薄さ。

- ・主体: 団体、所有者、行政、住民を含む。住民の役割として「存在に気づき、気かけ、大切に」することを強調。

- ・方針: 保存(調査、修理、防災)だけでなく、活用(知る・守るための価値実感)を重視。30年後の将来像「わたしがときめく宝もの、みんなで織りなす精華町」(協議会で決定)。「愛する・学ぶ・活かす」などのキーワードで一人一人が精華町の宝ものにときめくためのアイデアを募集。

【各委員からの意見等】

(高鍋委員長)

- ・セイカちゃん(マスコット)の活用を提案。精華町民の共通文化として、いちご体操やせいか音頭を文化財に含め、体が動くような共有体験を推進。公募で決まった町の花(バラ)を学校などで活用し、精華町イメージを強化。地名(柘榴、乾谷など)の歴史的意味を子どもたちに伝えることを提案。

(尾崎万佐子委員)

- ・町の花(バラ)、木(檜の木)の認知を先生方に広め、学校で活用。資料を学校に配布し、啓発を推進。「未来をつむぐ」の言葉を評価し、町の良さを子どもたちに伝える。女性の会で講座を担当し、精華町の歴史説明を依頼(文化財担当の金澤・中川)。

(尾崎麻由美委員)

- ・10ページの文化財収用施設設置について具体的内容を質問。東光小学校の民具活用の可能性を指摘。

(事務局(金澤))

- ・保管場所の不安定さを説明。庁舎内空きスペース利用の限界で、適切な施設設置を計画。東光小学校の民具は学校活用を検討中だが、地域住民の見学は未実施。

(丸山委員)

- ・文化財の場所が分かりにくいいため、地図付きの配置図を提案。住民が知り、愛するための工夫を。

(事務局(金澤))

- ・概要版のため地図省略も、本編に含む。所在地の周知は盗難のリスクを増加させるため、所有者と協議しつつ検討。

(播磨委員)

・地名読み(山田荘小学校の「やまだしょう」)の振り仮名を提案。旧村の読みにくい地名を考慮。昔の道路脇イチゴ看板の思い出を共有。ふるさとの発見の旅(せいか小さな旅)参加の価値を強調。

議事 (2) 中学校部活動の地域連携、地域展開の実証事業について

事務局より、資料に基づき説明。

- ・目的: 生徒の選択肢拡大、教員負担軽減、地域連携強化。既存スポーツ団体に中学生を受け入れ、活動継続。
- ・対象種目: ソフトテニス、陸上、バスケットボール、剣道、吹奏楽。
- ・受入団体: 精華町スポーツ協会加盟団体、けいはんなユース吹奏楽団。活動時間は週末。
- ・課題: 参加者確保、指導者確保、交通手段(保護者送迎中心)。

【各委員からの意見等】

(堀口委員)

・吹奏楽の楽器管理(学校・個人所有)を質問。子どもの成長による楽器変更の負担を懸念。

(事務局(北川))

・廣学館や小・中学校で楽器貸出(壊損時は弁償)。自宅持ち帰り練習可能。中学校からの借用も。

(友久委員)

・ウインドオーケストラは小学校児童参加可能も、実証事業は中学校対象。来年度以降の継続について質問。

(小笠原生涯学習課長)

・小学校児童との混合活動継続。

(高鍋委員長)

・目的(先生働き方改革・子どもの活動)のバランスを指摘。少子化による部活動維持難を指摘。市町村枠外の自由参加を提案。活動時間の遅さを問題視。

(村上副委員長)

・中学校体育連盟の大会参加への影響を懸念。地域展開で競技力低下の可能性を指摘。中体連の存続危ぶむ。元体育教師として納得しがたいが、見守る姿勢。

議事 (3) 来年度の生涯学習講座について

事務局(北川)より、城陽市市民大学のチラシを例に説明。

- ・城陽市の特徴：自然科学・健康・歴史・文化教育コースのジャンル分けて分かりやすい。
- ・精華町：寿大学リニューアルで幅広い世代対象。図書館文学講座、障害者教室、女性講座、文化財講座などを一括チラシでPRし、参加しやすくする。
- ・来年度調整中：プロスポーツチーム（ハンナリーズ等）協力、高齢福祉課・社会福祉課横断事業。楽しい・経験積める講座を推進（例：ヨシ笛コンサート、かけっこ講座の好評）。
- ・委員からのアイデア募集。

【各委員からの意見等】

（高鍋委員長）

- ・思いついたときに事務局へ提案。

（事務局（北川））

- ・随時意見受け付け。

議事（4）今後の社会教育委員関係の行事予定・来年度の更新について

事務局（北川）より、資料に基づき説明。

- ・行事：11月21日京都府社会教育委員連絡協議会研究大会（山城開催）。12月17日社会教育委員視察（櫛本子ども夢応援プロジェクト）。1月12日二十歳の集い。1月子育てサポータースキルアップ講座。2月役員会・理事会。
- ・視察詳細：11時役場集合、文化財視察経由で櫛本小学校へ。
- ・櫛本子ども夢応援プロジェクト：学校・家庭・地域協働。みんなの図書館、町力塾（自主学习・食堂）、夢応援（職業体験）、夢語る、夢見守り（登校見守り・交流茶屋）、みんなの広場（空き教室活用）。地域拠点存続の課題を学ぶ。
- ・委員更新：木崎・北尾委員は今年度まで。他委員は継続、公募実施。

【各委員からの意見等】

（高鍋委員長）

- ・社会教育委員は生涯職。OB会を提案（元気なOBの活性化）。

（播磨委員）

- ・10月25日せいかまちづくりフォーラム参加報告。町若手職員の発表（5グループ、動画・プレゼン）を評価。YouTube公開予定。

（事務局（北川））

- ・フォーラムは3回目。住民伝達・横つながり強化。自身は人材育成グループ、金澤は地域福祉グループ。

(事務局(北川))

・マスタースポーツ大会(30歳以上、参加費払い誰でも参加可能、世界交流)紹介。関西開催の魅力。

閉会挨拶 村上副委員長

- ・会議の活発な意見を感謝。和歌山大会台風中止を振り返り、資料活用を。
- ・稲刈り苦勞と自然の力を実感。
- ・11月21日京都府研究大会参加を促し、交流・人脈拡大を期待。
- ・健康留意を呼びかけ、次回まで元気で。

小笠原生涯学習課長より、委員長の円滑進行を感謝し、会議を閉会。